グローバル・技術戦略

知的資本経営の実践に向けた、グローバル×技術戦略



研究開発、マーケティング、新事業を横串で連携させ、技術・市場・事業を一体で進める技術経営を通じて、知的資本の強化に取り組んでいます。また、2026年度より知的財産室を研究開発部門下に位置づけ、IPランドスケープを踏まえた研究開発を一層強化しています。加えて、グローバルサウス市場をはじめとする海外展開においても、現地に根差した共創パートナーとの連携を深め、技術とグローバルな知見を掛け合わせることで、社会実装と価値創出を加速していきます。

取締役常務執行役員 CTO
加藤 洋一

社会課題の解決とグローバル展開を支える技術戦略

OKIは、140年以上にわたり培ってきた情報通信、ネットワーク、ハードウェア、光技術を基盤に、社会インフラの「止まらない／止めない」を実現する技術力と社会実装力を進化させてきました。人口減少・高齢化に伴う社会インフラ現場の担い手不足、激甚化する自然災害、経済安全保障への対応など、社会課題が一層複雑化する中、OKIは変革のパートナーとして世界中に新しい当たり前を届けるため、顧客・社会課題起点で価値を構想し、技術とケイパビリティを掛け合わせて、新たな価値と事業機会の創出につなげる取り組みを加速します。

技術戦略の3つのアプローチ

未来技術	モノづくり高度化	現場データ活用
将来の事業成長を担う技術	製造現場・プロセスの革新	データの利活用による価値創出
●自社技術の深掘り コア技術の磨き込み・高度化 ●共創による獲得 スタートアップ・大企業・大学・研究機関などとの連携 ●未踏領域の探索・育成 「進取の精神」で技術のフロンティアを開拓	●設計プロセスの高度化 デジタルエンジニアリングの推進 ●生産プロセスの高度化 自動化・自律化、プロセス革新 サプライチェーンの強靭化 ●品質と信頼性のつくり込み 高品質・高信頼な製品やサービスの提供	●産業横断的なデータ共有 オープンなデータ連携による価値共創 ●人とAIの協働 現場判断の高度化・自律化支援 ●暗黙知の形式知化 技能・ノウハウの継承と標準化

注力技術

- AI…取得したデータから価値を抽出し認識・予測・最適化・意思決定支援を行う
- ネットワーク…現場・設備・人・システムを途切れずにつなぎデータと制御の流通を成立させる
- ハードウェア…技術を現実の装置・システムとして機能させ社会実装を成立させる
- センシング…現場の現象・状態を取得し価値創出の起点を形成する
- 共通基盤・プラットフォーム…技術を横断的に接続しデータ運用を統合する

技術とケイパビリティの掛け算で新たな価値を創出

技術戦略では、将来の事業成長を担う「未来技術」の強化・獲得、「モノづくり高度化」による製造現場やプロセスの革新、「現場データ活用」による産業横断的なデータ共有や共創の3つのアプローチで、研究開発成果の早期社会実装を実現し、現場の課題を迅速に解決します。このうち「未来技術」では、自社のコア技術を磨き込み、スタートアップ、大企業、大学・研究機関との共創を通じて技術を機動的に獲得するとともに、未踏領域の探索・育成を進めます。「モノづくり高度化」では、設計・生産プロセスの高度化と技術革新により、品質と信頼性をつくり込みます。「現場データ活用」では、産業横断的なデータ共有、人とAIの協働、技能・ノウハウなどの暗黙知の形式知化を進めます。

この3つのアプローチを横断する注力5技術として、AI、ネットワーク、ハードウェア、センシング、共通基盤・プラットフォームを掲げ、シリコンフォトニクス、光電融合、フィジカルAI、次世代通信、量子技術を重点領域に位置付けます。通信の高速・大容量化、省電力化、現場の自動・自律化、社会インフラの強靭化に加え、防衛分野で培った水中音響技術などを海洋環境の把握や保全をはじめとする民生用途にも展開していきます。あわせて、これらを支える基盤技術や共通アセットの整備を進め、新たな事業機会の創出とグローバル市場での価値提供につなげます。

技術の社会実装を加速させる知財戦略

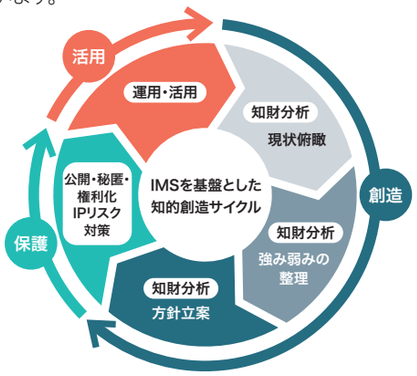
OKIは、知的財産（知財）を事業戦略と研究開発をつなぐ重要な経営資源と位置づけ、イノベーション・マネジメント・システム（IMS）の考え方に基づき、知財活動を「分析」「保護・リスク対策」「活用」の3段階で整理し、体系的に推進しています。

特に「分析」では、IP※ランドスケープ（IPL）を活用し、特許情報に加えて技術動向や市場動向、顧客ニーズを統合的に把握することで、重点技術領域の見極めや事業機会の探索を進めています。

こうした分析結果を研究開発テーマの方向づけや保護および活用方針の検討、他社特許などに対するリスク対策に反映するとともに、将来的な事業活用や協業の可能性も見据えた知財戦略の構築を進めています。

たとえば、光電融合技術に関わるCFBにおいてはグループ間でのシナジーを活用し、参入市場開拓、差別化技術の開発に取り組んでいます。知的財産室とも組織横断で連携し、IPLを活用した差別化技術の特定や戦略的なIPポートフォリオの構築により、技術の社会実装を支援しています。短期的な視点での事業の加速だけでなく、長期的な視点でCFBの事業展望を見据えた技術開発・事業方針の決定にも貢献していきます。

現在は、分析から保護、活用までを一気通貫で結びつける運用の定着に取り組んでおり、今後も知財の力で、技術・事業・経営をつなぎ、知的資本経営の実践に貢献していきます。



※ IP（Intellectual Property）：知的財産

グローバル・技術戦略

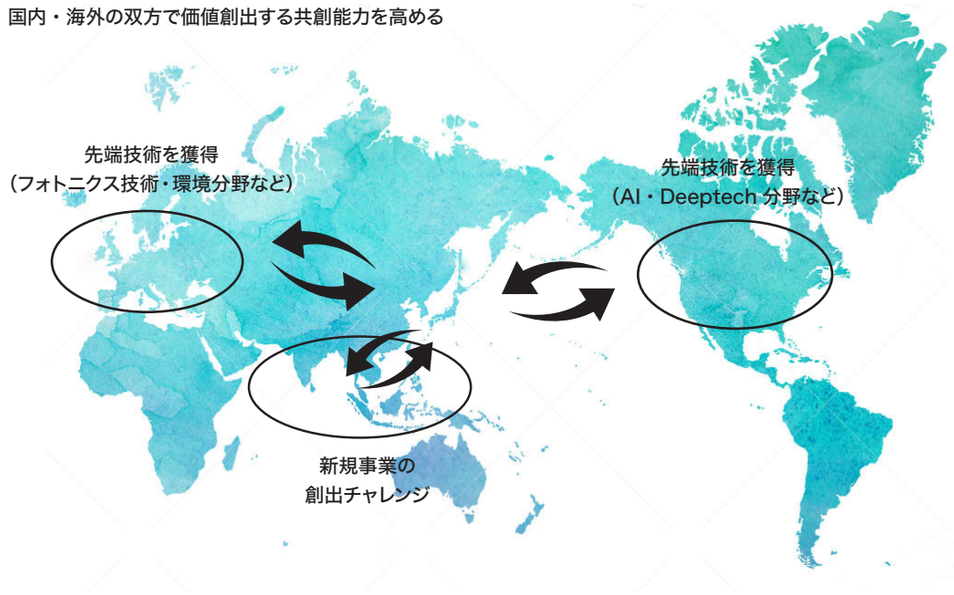
グローバルで技術・知財を社会実装につなげる事業開発

OKIは、現場で安定して使えるか、市場・顧客の課題に応えられるかを考え、技術や知財を国内外の社会・顧客課題と結びつけ、新たな事業として社会実装する取り組みをグローバルに推進しています。

各地域の市場ニーズを起点に、現地のパートナー、スタートアップ、研究機関との共創を進め、技術の適用可能性を検証しながら事業化を目指すグローバル・オープンイノベーション構想を展開しています。

技術・知財を単体で展開するのではなく、OKIグループが有する製品・サービス、顧客基盤、現地ネットワークと組み合わせることで、社会課題の解決に貢献する新たな価値の創出につなげていきます。

国内・海外の双方で価値創出する共創能力を高める



成長市場インドにおける新規事業創出

高い経済成長が見込まれ、社会インフラやデジタル化に対する需要が急速に拡大するインド市場において、OKIの技術を活用した新規事業の創出に取り組んでいます。

OKIのインド拠点および2025年4月からスタートした共創ファンドを活用し、現地の有力なスタートアップとの対話を通じて、顧客・競合・規制・商習慣などの市場環境を多面的に分析し、現地の社会課題や顧客ニーズを的確に捉える枠組みを整備・推進しています。

この挑戦を通じて、OKIの技術が現地の課題解決にどのように貢献できるかを見極め、持続的な事業展開につなげていきます。



インドにおける共創活動

技術×グローバルの未来デザイナーに向けて

グローバルな視座で技術・知財を社会実装し、新たな事業を創出していくためには、技術力に加えて、異なる市場や文化を理解し、市場・顧客の未来をデザインしながら、価値を形にする人財が不可欠です。

コア事業の拡大支援に加え、先端技術の探索や専門性の可視化、重点テーマへの戦略的な人財配置、大学・研究機関との連携を進め、技術と事業をつなぐ橋渡し力を備えたグローバル人財・技術人財を育成します。

特に、海外拠点や現地パートナーとの協働、共創ファンドを通じてつながった現地スタートアップ経営者との本質的な対話、実践的な事業開発機会などを通じて、異なる市場や文化を理解し、グローバル市場で自ら事業機会を見出し、社内外の関係者と協働しながら事業を創出・推進できる人財の育成を積極的に進めます。



世界で若手社員が活躍